

# カボチャ

**使用産地：**北海道など

**使用目的：**

カボチャは根の伸長が旺盛で強い吸肥力と耐乾性を持つ作物で草勢コントロールが重要です。土壌の肥効が強すぎると「つるぼけ」が発生し着果しにくくなるため、施肥設計と合わせて土壌の炭素率（C／N比）が低くならないように稲わらなど植物由来の有機物を施用する土壌管理もポイントになります。サツマイモネコブセンチュウの対策として緑肥を組み入れた輪作も導入されており、すき込まれた緑肥などの植物性有機物の分解促進・腐植化にはコフナに含まれる植物繊維質（セルロース）分解菌の活用が有効となります。

緑肥や有機物施用による土壌微生物の多様化・活性化は根群（特に毛細根）の発達を促します。毛細根の発達のカボチャの低品質果の要因とされるカルシウム不足の対策にもつながります。

**使用方法：**

＜露地・施設＞

収穫後の有機物分解・腐植化

散布時期：前作の収穫後すぐに

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 7～15袋／10a

使用方法：残っている土中の残根・残渣や植物由来の堆肥などと併せて全層混和。

効 果：有機物分解による土壌炭素率の改善、土壌微生物の多様化・活性化。

そ の 他：収穫後は土壌水分と地温がありますので、出来るだけ早くコフナを施用。

根圏微生物相の多様化・活性化のために

散布時期：定植10～14日以上前

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 7～10袋／10a

使用方法：元肥と同時に施用。土壌混和。

注 意 点：未完熟の堆肥と同時に施用しないで下さい。

